

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

|         |                              |
|---------|------------------------------|
| 事業所番号   | 4070402211                   |
| 法人名     | 株式会社 ウキシロケアセンター              |
| 事業所名    | グループホーム いこいの里 白銀             |
| 所在地     | 福岡県北九州市小倉北区白銀1丁目2-7 シヤトレ白銀1階 |
| 自己評価作成日 |                              |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a> |
|----------|---|

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                           |         |             |
|-------|---------------------------|---------|-------------|
| 評価機関名 | 株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部    |         |             |
| 所在地   | 福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階 |         |             |
| 訪問調査日 | 平成24年2月28日                | 評価結果確定日 | 平成24年10月16日 |

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりが自分らしくいられる環境づくりを目標に日々、共に過ごしている。一人ひとりの人権を尊重した上で、アットホーム的な関係を利用者との間で築いている。泣いたり、笑ったり、怒ったりと喜怒哀楽の多い毎日であるが、利用者一人ひとりがストレスを溜めてしまうことなく、素直に感情を出すことにより職員との関係はもちろんのこと、利用者同士がお互いの存在を認め合うことが出来ており、職員、利用者共により良い関係を築くことが出来ている。他事業所との交流も積極的に行っており、当事業所内で孤立することなく外出する機会を多く設けている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中心市街地にも程近い街なかであり、マンションの1階部分に位置している事業所である。近隣には昔ながらの黄金町商店街があり、入居者の方と買い物に出掛ける際には、地域の方と挨拶を交わしている。管理者、職員は、法人理念のもとに掲げられる「正直で美しく働こう」を合言葉に、入居者個人を尊重した声かけや対応となるよう、日々確認を行っている。法人グループ全体としての交流の機会や、1泊旅行を企画する等、様々な介護サービスを展開するスケールメリットも活用しながら、暮らしの活性化に取り組んでいる。長期に入居されている方も多く、日常の中で、自己決定の場面や感情を表出できる居場所であることを大切に、安心して過ごせるよう取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印                                     | 項目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印  |
|----|---|----|--|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:25,26,27)<br>○       | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,21)<br>○   |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:20,40)<br>○             | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,22)<br>○                     |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:40)<br>○                   | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4)<br>○ |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:38,39)<br>○    | 68 | 職員は、生き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)<br>○                                      |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:51)<br>○                  | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う<br>○                                       |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:32,33)<br>○         | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う<br>○                                   |
| 64 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:30)<br>○ |    |  |

| 自己評価および外部評価結果      |     |   |   |   |   |
|--------------------|-----|---|---|---|---|
| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |   |
|                    |     |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容   |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |   |   |   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている  | 全事業所共通の理念をつくり掲示している。理念に添ったサービスが提供できるよう、各職員が常に心がけている                               | 法人理念とともに、信条・目標・目的を掲げている。また、「美しい言葉かけ」等の言葉も掲示され、毎朝唱和し、接遇や立ち振る舞いへの意識を高めながら、実践に結び付けるよう取り組んでいる。            |   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している  | 町内の商店街やスーパーへ買い物兼ね、利用者連れ外出しているが、まだ日常的に交流との段階には達していない                               | 町内会に加入し、町内会員としての繋がりを大事にしている。近隣の市場に入居者の方々と買出しに出かけ、挨拶を交わしたり、小倉祇園太鼓の時期には、ホームへの訪問を受けている。                  | 地域との交流を課題として捉え、これまでも働きかけを続けている。少しずつ理解を広げ、入居者本位の交流を積み重ねていく意向である。 |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている  | 地域の人々との交流が少ないため、地域貢献に繋がる支援方法や活かしていただけるものは何か、職員間で常に話し合っている                         |   |   |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている                                     | 二ヶ月に一度実施しており、事業所内での取り組みや状況を報告し今後に向けて話し合っている。外部の方との交流を図るためのアドバイスなども頂いている           | 家族、地域住民として近隣の米穀店経営者、地域包括支援センター職員等の参加を得て、2ヶ月に1回定期的に開催されている。全家族への開催案内を行い、状況報告や意見交換が行われており、運営への反映に努めている。 |   |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる  | 日頃より担当のケースワーカーと連絡を取っており、より良い協力関係を築けるよう取り組んでいる                                     | 運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ている。日頃から、介護保険課職員やケースワーカーとの連絡の機会を持ち、ホームの現状についての情報共有や、助言を頂いている。               |   |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 夜間は職員1名の対応により、不審者などからの危険防止のため、やむを得ずに玄関の施錠を行っているが、日中は施錠せず解放しており、身体拘束も一切行っていない      | 日中の施錠は行っていない。畳敷きの居室にする等、生活習慣の尊重やリスクの軽減への配慮がみられた。言葉使いや立ち振る舞いへの意識も高めながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。             |   |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている                                     | 勉強会を設け、虐待に限らず高齢者について学ぶ機会を数多く持てるような環境づくりをしている。事業所内での虐待が見過ごされることの内容常に注意を払い、防止に努めている |   |   |

福岡県 グループホーム いこいの里 白銀

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|--|---|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  | (6)  | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している  | ミーティングなどで議題として取り上げ、学ぶ機会を多く持っており、活用できるよう支援している   | 権利擁護に関する制度について、資料を用意し、入居時に説明を行っている。現在、制度を活用している方もおり、ミーティング等で取り上げ、情報の共有を図っている。  |                   |
| 9  |      | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている   | 契約の際には、利用者と家族の両者に契約に関する説明をきちんと行い、理解と納得をしていただいた上で署名と捺印を頂いている   |  |                   |
| 10 | (7)  | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている   | 利用者や家族の意見などを、事業者内外のミーティングや運営推進会議などで議題として取り上げ、さまざまな意見を取り入れ運営に反映できるよう努めている  | 全家族へ運営推進会議の開催案内を行っている。家族の来訪時には状況報告を行い、意見の収集に努めながら検討を行い、運営への反映に努めている。   |                   |
| 11 | (8)  | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている  | 事業所内でのミーティングで交わした意見や提案を管理者ミーティングで議題として取り上げ、すこしでも多く反映できるよう努めている  | クルーミーティング、リーダーミーティング、管理者会議等、段階に応じて検討され、職員意見の反映につなげていく仕組みが整備されている。  |                   |
| 12 |      | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている  | 職員個々の状況を把握しており、向上心を持って働けるようあらゆるチャンスを与えている。各事業所の管理者と意見を交わし、職場環境・条件などあらゆる面での職員に対しても常に前向きに検討している                                   |  |                   |
| 13 | (9)  | ○人権の尊重<br>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員の募集・採用にあたり、性別・年齢などを理由に排除するようなことは行っていない。職員一人ひとりが生き生きと働ける環境づくりを心がけており、能力に応じゆとりを持った教育を行っている。また、全職員にあらゆるチャンスを与え向上心を持ってもらうよう配慮している | 法人としての採用となり、向上心のある職員を希望している。管理者は、職員の経験やスキルに合わせた外部研修の参加を促し、資質の向上を図っている。法人内他事業所との交流の機会も多く、馴染みの関係性に配慮しながら、レベルアップにつながる異動も行われており、能力を発揮する機会となっている。 |                   |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動<br>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる   | 月に1度行っている管理者ミーティングで意見交換を交わし、他事業所などでの取り組みを参考にし、当事業所にも反映できるよう取り組んでいる  | 月1回のミーティング時や法人管理者会議にて、人権尊重や理念に沿った支援が行われているか、常に話し合いを行い、法人全体の資質を上げる取り組みを行っている。   |                   |

福岡県 グループホーム いこいの里 白銀

| 自己                          | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|-----------------------------|------|--|--|---|-------------------|
|                             |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15                          |      | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 事業所内での勉強会のほか、研修などへの参加を積極的に勧めている。また、職員一人ひとりに合わせた指導をしており、気負いすることなく安心して働き続けていけるような職場の環境づくりを心がけている       |   |                   |
| 16                          |      | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修などに参加することで、同業者と交流する機会を作り、たくさんの人と関わることで幅広い視野をもち、サービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいる                              |   |                   |
| <b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |      |  |  |   |                   |
| 17                          |      | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている           | サービス計画書を作成するにあたり、必ず本人に意向を確認している。安心した生活を送れるよう、普段の会話の中からも気持ちを汲み取ることが出来るような関係づくりに努めている                  |   |                   |
| 18                          |      | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている                      | サービス計画書を作成するにあたり、本人だけでなく家族の意向も必ず確認している。毎月の生活状況を報告しており、面会に来られた時には会話を多く持ち、気になることなど気軽に言えるような関係づくりに努めている |   |                   |
| 19                          |      | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている                  | サービス計画書を作成するにあたり、本人と家族の意向を確認した上で、必要としている支援を職員間で話し合い、本人と家族に同意を得たうえ、プランに沿った対応に努めている                    |   |                   |
| 20                          |      | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                                  | 最低限の距離を保ちながら、もうひとつの家族として共に暮らしていけるように、個々に合わせた関係を築いていけるよう努めている   |   |                   |
| 21                          |      | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている                   | 本人と家族との絆が途切れないよう、家族とも話し合いを行い、家族からの力も借り、家族の負担にならないよう注意し、家族と共に支えていけるよう関係を築いていく努力をしている                  |   |                   |
| 22                          | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                               | 外出した時などに、馴染みの場所などへ行けるよう支援に努めている。面会があった際などに関係が途切れることのないように声をかけている                                     | 馴染みの美容室を家族と共に利用している方や、法人として家族も参加できる1泊旅行を企画する等の支援を行っている。 |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 23                                 |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                                   | 利用者同士の関係の把握に努めており、時には職員が間に入り、利用者同士コミュニケーションが図りやすくなるよう支援している。また、小さなことでも利用者同士助け合うことで、お互いに支えあえる関係づくりに努めている |  |                   |
| 24                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | サービスが終了しても、可能な限りの相談や支援が出来るよう体制を整え、支援に努めていきたい  |  |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |   |  |                   |
| 25                                 | (12) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 各職員が利用者一人ひとりの希望や意向についての把握に努めている。何を望んでいるのかを優先に考え、意に沿えるよう支援している   | アセスメントシートの定期的な見直しを行い、一人ひとりの変化の把握が一目で分かり、職員が情報を共有して支援を行っている。希望や意向の把握が困難な入居者には、家族からの情報等で本人本位に検討している。                       |                   |
| 26                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | これまでの生活歴、環境などをたどり、暮らし方や趣味などを出来る限りサービス計画書に取り込み、経過などの把握に努めている   |  |                   |
| 27                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 日々の健康状態、精神状態の把握に努めている。日々の状態に応じて一人で出来ること、一緒に出来ること、介助することなど臨機応変に対応しており、声かけなども状態に応じ工夫している                  |  |                   |
| 28                                 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人と家族だけでなく、主治医の意見を交えた上で職員間で話し合い、さまざまな意見やアイデアを反映させ介護計画書の作成にあたっている  | 本人、家族の意見を踏まえ、医師や職員の意見を参考にしながら介護計画を作成している。ケアプランチェック表による日々の確認と、毎月のモニタリングや定期的なアセスメントの見直しを通じて、現状に即した支援が行われているかどうか振り返りを行っている。 |                   |
| 29                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 日々の様子や気づいたことなどは個別の記録に記入しており、職員間で情報を共有している。それを基に介護計画の見直しにも活かしている   |  |                   |

福岡県 グループホーム いこいの里 白銀

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|---|--|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる                            | その時々状況・状態に応じて、本人やご家族の気持ちをもとに職員間で話し合いをもち、状況・状態にあったサービスを提供できるよう取り組んでいる   |   |                   |
| 31 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 地域の方々との交流は殆どない状態ではあるが、地域の商店街へ買い物に行ったり散歩に行くことで、少しずつでも交流を図っていくよう支援している   |   |                   |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 月2回往診を行っている。往診以外にも利用者の状態や気になる点、家族の希望など常時かかりつけ医へ連絡や相談を行っている。利用者や家族が安心して過ごしていけるよう、かかりつけ医との関係を築いている                         | 入居時に、かかりつけ医について確認を行っている。協力医療機関及び協力歯科医療機関ともに定期的な往診がある。他科受診については、基本的に家族対応となるが、状況に応じて対応している。                     |                   |
| 33 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 当事業所は介護職員のみであるため、情報や相談は全てかかりつけ医へ連絡している。24時間体制でかかりつけ医より適切な受診などの指示を受けられるよう介護職員として支援している                                    |   |                   |
| 34 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した際には、本人の性格や生活習慣など理解した上で、治療にあたって頂けるよう、病院側へ情報を提供している。入院中は面会を兼ね情報交換などを行っている。退院前にはカンファレンスを行い、退院後のケアについても病院側と綿密に話し合いを行っている |   |                   |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 重度化、終末期のあり方については、事業所で出来ることを契約の段階できちんと本人や家族と話し合いをしている。地域の関係者との取り組みについては今後の大きな課題として残っている                                   | 入居時に、重度化や終末期に向けた方針を説明している。法人全体で外部講師を招き研修を行い、認知症の理解やターミナルケアについて、理解や意識を深めている。状況の変化に伴い、家族や医師との話し合いを重ね、方針を共有している。 |                   |
| 36 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 急変や事故に備え、各職員が対応できるよう努力している。消防訓練時にレクチャーを加え、心肺蘇生などの訓練を行っており、実践できるよう心がけている  |   |                   |

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |  |
|----------------------------------|------|--|---|--|--|
|                                  |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 37                               | (16) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている           | 年2回消防訓練を行っており災害時の避難方法も確認している。また、災害・非常・緊急時に伴い連絡網を作成している。地域の方々との交流が少ないため、協力体制を築いているまでには達していない | 昼夜を想定して、年2回の消防訓練を行っている。町内会に加入している為、回覧板で消防訓練の案内を行ってはどうかという意見も職員から出ている処である。  | 少しずつ地域との交流を積み重ねている中で、災害時における協力体制の構築を課題としても捉えている。マンション1階の事業所である立地条件も踏まえ、運営推進会議等を通じて、働きかけを継続していくことが期待されます。 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |   |  |  |
| 38                               | (17) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 利用者一人ひとりの人格の把握と理解に努め、日々の心身の状態に合わせた言葉かけをしている。また、周りの利用者の気分も害さないよう配慮し対応に努めている                  | 部屋で寛いだり、リビングで会話を楽しむ等、それぞれの意向を尊重している。洗面台には個別のタオルが用意されている。選択や自己決定の場面を大切に捉えている。   |  |
| 39                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 全ての利用者が自身の思いなどを表してはいないが、買いたい物や外出の希望を表す利用者もあり、出来る限り希望に沿えるよう努めている。その日、着る衣類など自身で選んでいけるよう支援している |  |  |
| 40                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 出来る限り、一人ひとりの希望に沿い一日を過ごせるよう心がけているが、希望などを言う利用者がいないため、外出する時などには行き先を尋ね、希望に沿えるよう努めている            |  |  |
| 41                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 利用者それぞれが自身で着る服を選んでおり、自身で髪を結ったり、化粧を楽しんでいる利用者もいる  |  |  |
| 42                               | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 食材を切る、炒めるなど調理自体は行っていないが、味見をして頂いたりしている。また、食後にお膳を下げたり、食器を拭いたり利用者の方に合わせた後片付けを一緒に行っている          | 入居者の方と共に、地域の方との挨拶を交わしながら、近隣の市場で買い物を行っている。調理担当職員が配置され、季節感や形態に配慮された調理が行われている。好みの箸や、身体状況にあわせた食器を用い、必要な介助を行いながら、持てる力を発揮してもらっている。 |  |
| 43                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 肉・魚・野菜などバランスよく摂れるよう献立を組み立てている。食事形態も利用者の状態や力に合わせ支援を行っており、利用者一人ひとりの一日の摂取量・水分量の把握に努めている        |  |  |

福岡県 グループホーム いこいの里 白銀

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                  | 毎食後、口腔ケアを必ず行っており、歯ブラシや歯間ブラシ、スポンジブラシなど使用し利用者に合わせたケアを行っている。週1回歯科往診があり、口腔ケアの指導もしている                    |   |                   |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている  | 排泄チェック表を基に利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、日中・夜間共にトイレへの声かけや誘導、見守りを行いトイレでの排泄が行っていけるよう支援している                     | 排泄パターンの把握や、仕草や表情を観察し、トイレ誘導を行っている。ポータブルの使用も含め、夜間についてもトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。 |                   |
| 46 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                  | よく噛んで食事が摂れるよう一人ひとりに合わせた食事形態にしている。水分量も極端に増減のないよう気をつけている。軽い運動も行っており便秘予防に取り組んでいる                       |   |                   |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 週2回入浴を設けている。一人ひとりのタイミングなどに合わせ声かけなど行っている。曜日については、職場の都合に合わせているのが現状であるため、今後の課題として個々にそった支援ができるよう努めていきたい | 週2回入浴日の設定はあるが、希望があれば、シャワー浴も含め、毎日の入浴にも対応できるよう努めている。シャンプー等の希望があれば、個別に対応している。  |                   |
| 48 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している                   | 一人ひとりの生活習慣を把握し、その時々状況に応じて休息を促している。一人ひとりに合わせた衣類調整や室温調整を行い、安眠できるよう支援している                              |   |                   |
| 49 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている              | 薬の目的や副作用などについて理解している利用者はいない。事業所がわが服薬の管理を行っており、服薬時に一人ひとりに合わせた支援を行っている。症状の変化の確認は常に行っている               |   |                   |
| 50 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | これまでの生活歴などを活かし、一人ひとりに合わせた役割をもって貰えるよう支援に努めている。気分転換なども個別に外出するなど、多く機会を持つよう努めている                        |   |                   |

福岡県 グループホーム いこいの里 白銀

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|------|--|--|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している                      | 少しでも多く外へ出れるよう散歩や買い物に行けるよう支援している。ドライブでは利用者の希望を取り入れ行き先を決めている。地域の方々との交流が殆どないため、協力を得ることは難しいが、家族からの協力のもと、外食・外出・外泊が出来るよう支援に努めている | 近くの公園への散歩や市場への買い物、チャリティーコンサート、花火大会、ドライブ等に出掛け気分転換を図ったりしながら、心地良い暮らしの個別支援に努めている。全事業所合同での一泊旅行では、家族の参加もあった。同法人施設での餅つき大会の参加等、法人間の交流も活発である。 |                   |
| 52 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 基本的には事業所にて預かり金として金銭の管理を行っているが、家族の了承を得た上で小銭程度のお金を所持している利用者もいる。個人の必要物品は預かり金から購入している。   |  |                   |
| 53 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 本人の希望があれば電話をしている。手紙のやり取りをするような支援は今のところ行っていない。今後、手紙を送れるような環境をつくっていけるよう努めていきたい   |  |                   |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 出来るだけ刺激の少ないようにホーム全体の光を昼光色に統一している。リビングで一日を過ごされているため、季節を感じれるような飾りつけや植物などを取り入れ工夫をしている   | 室内は全体的にやわらかな色調で統一され、トイレへの動線も配慮されている。居室やリビング等へ自由に行き来があり、ソファの配置により寛ぎの場所も確保されている。換気や加湿器の配置等、快適に過ごせるよう配慮されている。                           |                   |
| 55 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 建物の都合により何処に居ても全体が見渡せるようになっているため、共用空間で独りになれる場所はないが、常に同じ場所に居座らず、共用空間であっても違う場所で過ごせるよう環境づくりを心がけている                             |  |                   |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 利用者一人ひとりに合った環境で生活していけるよう努めている。無理に整理整頓をせず、少々乱雑であっても落ち着くのであれば利用者の思いを尊重している。安全を考慮し家族と相談した上で、畳で生活して頂いている利用者もいる                 | 筆筒や鏡台等の使い慣れた家具が持ち込まれている居室もあり、整理整頓された居室、生活感あふれる居室と、本人、家族の意向や居心地の良さに配慮された、個性ある居室作りとなっている。  |                   |
| 57 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 車椅子を使用している利用者には自力駆動できる、独歩の利用者には転倒のないよう環境の安全確保と声かけ、見守りに努め残存機能を活かすため、最小限の援助を心がけている   |  |                   |